

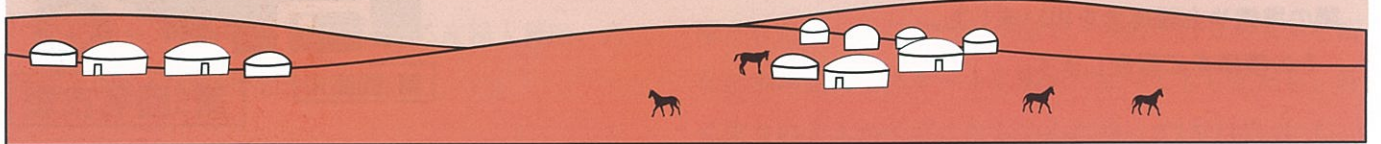
# NewsLetter

vol.28

ぴあ・かもみーる日記⑨●

シェルター全国ネットワーク会議全国大会●

新年のご挨拶●



## パオの現在 **「ぴあ・かもみーる」日記 ⑨**

私がステップハウス「ぴあ・かもみーる」のスタッフとして働き始めて半年が経ちました。

入ったばかりの半年前は5人の利用者さんが在籍していました。

当初、私はもちろん緊張をしていましたが、それは利用者さんも同じだったのではないかと思います。そんな緊張した私に最初に話かけてきてくれたのは、目にとっても大きなAさんでした。Aさんはとっても人懐っこくて、何も分からない私に、まるで彼女たちがスタッフかのように、いろいろなことを教えてくれました。そんなAさんのおかげで、ぴあかもに少しずつ慣れていくことができました。Aさんは、とっても社交的でノリのいい子でした。初めまして、のときからいろいろな質問をしてくれ、話ことができました。

Bさんは一見、怖そうに見えましたが、笑うと笑顔がとっても可愛い女の子らしい子でした。

Cさんはとっても人見知りでした。挨拶をした時はずっと背中を向けたままで「チラッ」と一瞬こちらを見ただけでした。とっても臆病な子だったからか、喋るようになるまで少し時間はかかりました。Cさんは私が一番関わらせてもらった子です。Cさんはちょうどアルバイトをお休みしている期間だったため、ミッション(子どもたちが、自分でいろいろな目標を立てて挑戦することを、ぴあかもではこう呼んでいます)の時間に一緒に近所に写真を撮りにいったり、彼女の仕事探しのお手伝いをしたり、余暇の時間には公園でバドミントンをしたりと、時間を共にすることが多かった利用者さんです。最初は遠慮がちでしたが、時間を共にするうちに段々と打ち解けていくことができま

した。

私がぴあかもスタッフになってから半年の間に入退所者が何人かありました。色んな旅立ちの形があります。いつも退所していく利用者さん達には私は何ができたんだろうか…と思います。「支援」と一言でいっても、なかなか難しいなあと、半年経った今考えています。

安心・安全な場所を提供しながら、利用者さんが必要としていることを必要に応じて支えられるよう、手を差し伸べていく…。日々試行錯誤しながら、利用者さんとの時間を過ごしています。利用者さんがぴあかもで過ごす時間は、一生の中でわずかな時間ではありますが、共に過ごした大人として、彼女たちがいつの時かふっと、一瞬でも思い出してくれるような支援スタッフになりたいと思っています。(ぴあかもスタッフI)



毎年恒例の、  
ぴあかもクリスマスツリーは、  
子どもたちの手により  
飾り付けが完成！  
どんな思いを込めたのでしょうか。  
願いはかなったかな。

